

BSS ご加入ユーザーさまへ



**2024 年度**  
**PC-MAPPING**  
**機能追加・更新情報のご報告**

第1版 2024年12月27日 現在

株式会社マプコン

[アーク・ノードからポイント生成]コマンドパラメーター追加 .....	3
[矩形ポリゴン指定による連続印刷]コマンドパラメーター追加 .....	3
URL 指定での標高タイルデータ(PNG)の取り込み .....	3
[レイヤー縮尺の変更]の追加 .....	3
[Webメルカトル タイル画像エクスポート]オプション追加 .....	4
[GPS ログから軌跡ベクター生成]オプション追加 .....	4
[作図]-[長方形ポリゴン追加]追加 .....	4
[編集]-[編集]-[正規化]-[ベクターデータの合わせ込み変換 2]オプション追加 .....	5
[地理院地図]-[タイル形式画像リンクデータ]-[タイル形式画像背景表示設定]タイルデータのサイズ .....	5
[ポリゴン 3D ビュー設定]オプション追加 .....	5
[同一属性要素群重心ポイント生成]追加 .....	6
[ベクトルタイルインポート]ダイアログボックス オプション追加 .....	6
[広域ベクター]パネルへ「削除」ボタンを追加 .....	6
[作図]-[多角形アーク]オプション追加 .....	7
[文字列マスクポリゴンの生成]オプション追加 .....	7
[アークの表示文字列をアーク長に合わせた注記ポイントを生成]追加 .....	7
広域ベクターをキャッシュとして利用するベクトルタイルデータの自動ローディング機能 .....	8
プロジェクトキーリスト・コマンド定義追加 .....	8
[UAV コース調整・出力]オプション追加 .....	8
計算フィールド関数追加 .....	9
コマンド「VideoPlay2」オプション追加 .....	9
[インポート]-[GeoCSV]追加 .....	10
[インポート]-[GeoCSV]追加 .....	10
[エクスポート]-[GeoCSV] .....	10
「AttrSrchAll」 コマンドオプション追加 .....	10
[GeoTiff から MBTiles ファイルの生成]追加 .....	10
[JPEG ファイル(属性フィールド)への位置座標付与]オプション追加 .....	11
[構成メッシュの結合]ダイアログボックスオプション追加 .....	11
[エクスポート]-[GeoPackage(GPKG)ファイル]追加 .....	11
起動オプション追加 .....	12
[編集]-[文字列編集]メニューの追加 .....	12
[ポイントの表示文字列毎にポイントレイヤーを生成]追加 .....	13
[集計・統計処理]・[クロス集計]表示の変更 .....	13
[プロジェクトエキスパート]-[キーリスト]へ画面抑制追加 .....	14
[プロジェクトエキスパート]-[キーリスト]へメイン画面抑制追加 .....	15
[PVP 設定]-「保存完了後、ZIP ファイルに集約する」追加 .....	15
[プロジェクト間レイヤー比較]追加 .....	16
[標高]-[編集]-[構成メッシュの結合]機能追加 .....	16
図郭コード等算出(コンパクト表示)追加 .....	17
[GPS ログファイル(複数可)と対応する動画ファイルとのリンク]を追加 .....	17
[同一属性要素間アーク作図]コマンドオプション追加 .....	18
[TIN、標高メッシュからの Z 値付与]コマンドオプション追加 .....	18
[選択状態転記(レイヤー内)]へ転記方法の追加 .....	18
[プロジェクト間接合チェック]-「Z 値比較」追加 .....	18
[アーク属性照会]ダイアログ-[座標リスト]ウィンドウへ表示の追加 .....	19
「360 度のパノラマ写真 JPEG ファイル」の GPANO タグに関する追加 .....	19
[属性データ表示制御]ダイアログボックス-「保存・読み込み」の追加 .....	20
[データベース]-「検索文字の ¥ をそのまま使う」チェックボックスを追加 .....	20
メニューにないコマンド「ViewSplit」を追加 .....	21
[印刷]-[印刷実行]-[プレビュープロパティ]の追加 .....	21
「シェープファイル」インポート時の UTF8 の変換追加 .....	22

作図時のスナップ処理、対応オプションの追加 .....	22
[矩形ポリゴン指定による連続印刷]オプション追加 .....	23
計算フィールド 環境変数追加 .....	23
Proc 系コマンド追加 .....	23
インポート機能更新 .....	23
[プロジェクト間レイヤー比較]オプション追加 .....	24
[背景イメージ・統合広域イメージをポリゴンで連続切り出し]オプション追加 .....	24
「ルック&フィール」の設定 廃止モード追加 .....	25
[フィールド結合]オプション追加 .....	25
[フィールド照合・転記]オプション追加 .....	26
[明るさの均一化]処理方法改善 .....	26
[16ビット階調 TIFF ファイルを 8ビットカラーTIFF に変換]追加 .....	26
PC-MAPPING の起動オプションの追加 .....	27
[アーク部分作図編集(スプライン)]追加 .....	27
ベクターデータと地理院地図等の 重ね合わせ表示変更 .....	28
[リレーション起動のオプション設定]設定追加 .....	28
[矩形ポリゴン指定による連続印刷]オプション追加 .....	29
[想定整形地の生成(一括処理)]コマンドパラメーター追加 .....	29
[座標データのベクター変換]Z 値オプション追加 .....	30
[シェープファイルインポート] .zip ファイル指定 .....	30
アーク代表点 色・サイズ変更 .....	31
[アーク平滑化]コマンドパラメーター追加 .....	31
[位相一貫性のチェック]コマンドパラメーター追加 .....	31
[背景ピクチャー]パネル「キーリスト」ボタン追加 .....	31
[背景ピクチャー]パネル「キーリスト」追加 .....	32
コンパスバー表示 .....	32
コンパスバーのサイズ指定 .....	32
[3Dビュー II 基本パラメーター設定]追加 .....	32
[結合ノードを跨ぐアークを検知、分割、ノード結合]追加 .....	33
[タイル形式画像背景表示設定]コマンドパラメーター追加 .....	33
[アーク・ノード構造検査]属性の保持 .....	33

### [アーチ・ノードからポイント生成]コマンドパラメーター追加

[編集]-[編集]-[編集作図]-[アーチ・ノードからポイント生成]

コマンド: ArcToPnt にコマンドパラメーターを追加しました。詳細につきましては、

[編集]-[アーチ・ノードからポイント生成]ダイアログボックスのヘルプをご確認ください。

### [矩形ポリゴン指定による連続印刷]コマンドパラメーター追加

[印刷]-[印刷実行]-[矩形ポリゴン指定による連続印刷]

コマンド: PrintByMesh にコマンドパラメーターを追加しました。

詳細につきましては、

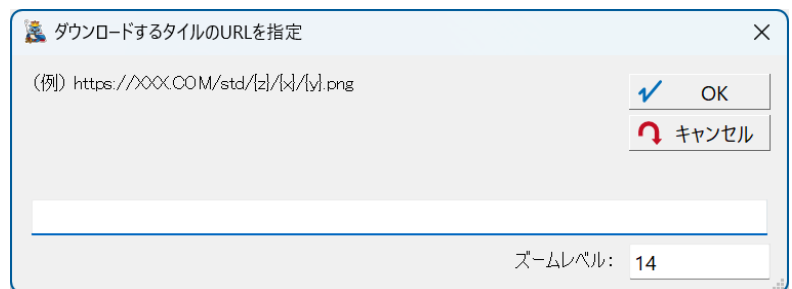
[矩形ポリゴン指定による連続印刷]ダイアログボックスのヘルプをご確認ください。

### URL 指定での標高タイルデータ(PNG)の取り込み

[編集]-[標高メッシュ][取り込み]に、

「URL 指定での標高タイルデータ(PNG)の取り込み」を追加しました。

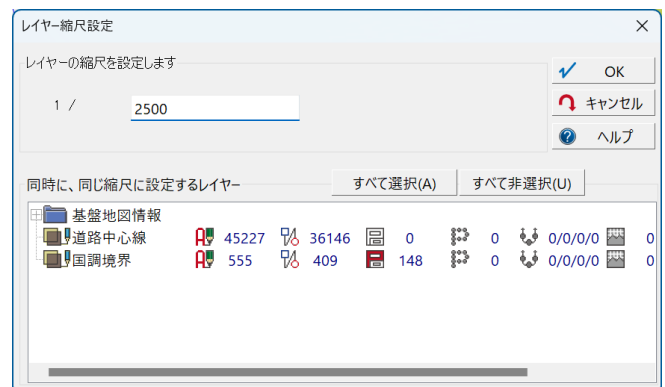
指定した標高タイルデータの URL から、現在の表示領域に該当するデータ(PNG 形式)を取得し、標高メッシュプロジェクトに登録します。



### [レイヤー縮尺の変更]の追加

[プロジェクト]-[プロジェクト設定]へ[レイヤー縮尺の変更]を追加しました。

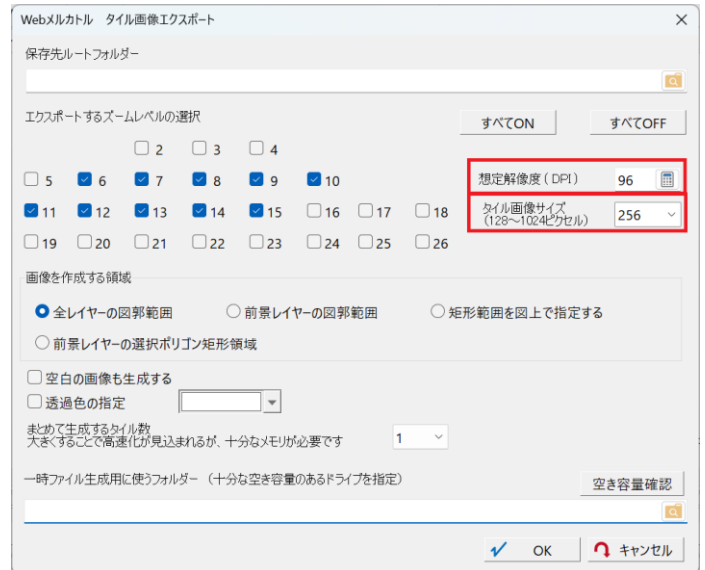
プロジェクトのレイヤーの一部、またはすべてを一括して、指定の縮尺に変更できます。



## [Web メルカトル タイル画像エクスポート]オプション追加

[エクスポート]-[Web タイル]-[画像]  
「Web メルカトルタイル画像エクスポート」へ、

解像度を指定するオプション  
タイル画像サイズを指定するオプション  
追加しました。  
詳細につきましては、ヘルプをご確認ください。



## [GPS ログから軌跡ベクター生成]オプション追加

[システム]-[GPS]-[GPS 軌跡]-[GPS ログから軌跡ベクター生成]からのリレーション起動等による動画再生に関して、「動画(高速)再生用動画ファイル」「静止して拡大するときの静止表示用動画ファイル」を二重持ちする機能を実装しました。

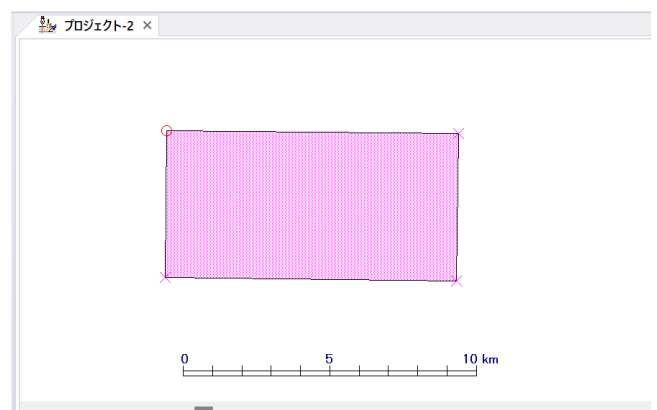
例えば、元の動画ファイル〇〇.mp4 に対してフレームレート等は元ファイルと同じで、画像サイズのみを縮小した〇〇-s.mp4 があつた場合、動画としての再生中は縮小版を使って再生し、ストップした時点で、オリジナルの動画ファイルから、同じ位置/時間の画像を用いて拡大等を行います。

また、[GPS ログファイルからベクターデータ生成]ダイアログにおいて、[FFmpeg](#) がインストールされている場合(\*)は「(高速描画用)低解像度ビデオの生成」ボタンが追加され、縮小動画を生成できます。

(\*)FFmpeg のインストールに関しては、[FFmpeg 6 のインストール](#)  
クリエイティブコモンズ BY NC SA  
などをご参照ください。

## [作図]-[長方形ポリゴン追加]追加

[作図]-[アーク・ノード]-[アーク追加]へ[長方形ポリゴン追加]を追加しました。  
長方形作図とポリゴン追加(生成)を一括して行います。

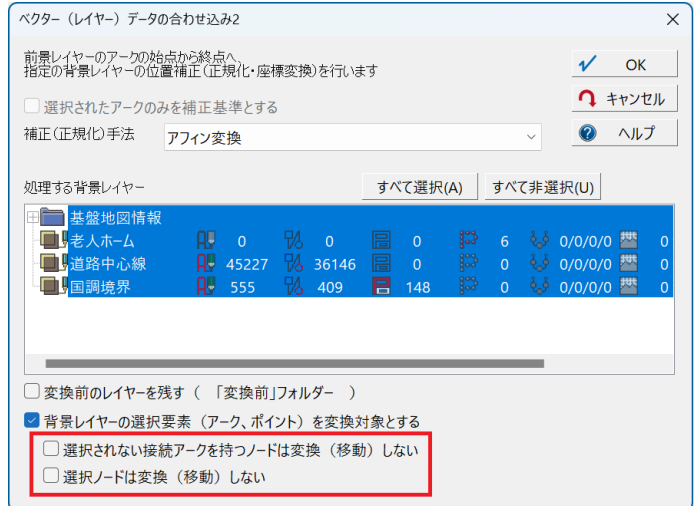


[編集]-[編集]-[正規化]-[ベクターデータの合わせ込み変換 2]オプション追加

[編集]-[編集]-[正規化]-[ベクターデータの合わせ込み変換 2]へ

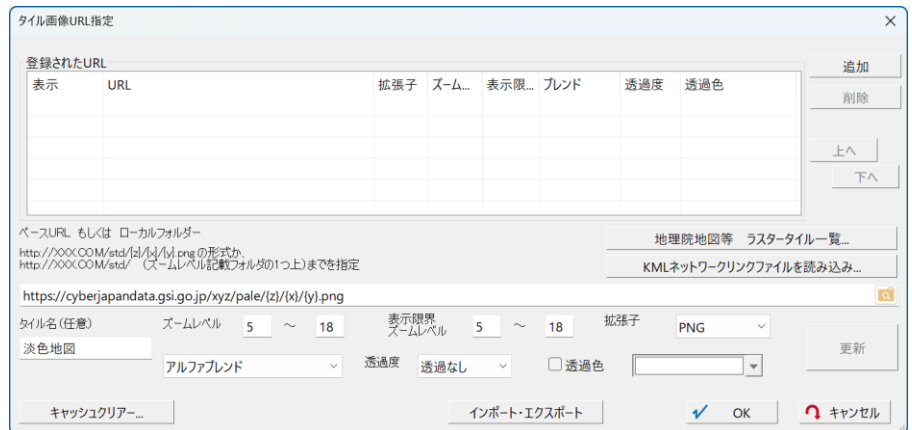
「選択されない接続アークを持つノードは変換(移動)しない」

「選択ノードは変換(移動)しない」オプションを追加しました。



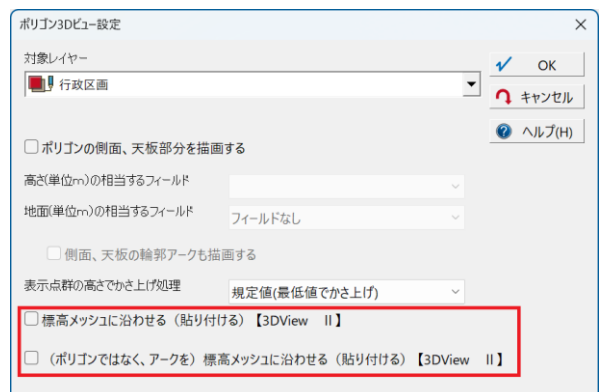
[地理院地図]-[タイル形式画像リンクデータ]-[タイル形式画像背景表示設定]タイルデータのサイズ

[地理院地図]-[タイル形式画像リンクデータ]-[タイル形式画像背景表示設定]での描画(表示)につきまして、個別のタイル画像のサイズが、256×256ピクセル以外の場合にも対応いたしました。



[ポリゴン 3D ビュー設定]オプション追加

[編集]-[編集]-[レイヤー]-[ポリゴン 3D ビュー設定]-[ポリゴン 3D ビュー設定]ダイアログボックスへ [標高メッシュに添わせる(貼り付ける)【3DView II】]チェックボックスを追加しました。



## [同一属性要素群重心ポイント生成]追加

[編集]-[編集]-[編集作図]へ

[同一属性要素群重心ポイント生成]を追加いたしました。

前景レイヤー内、指定した内部属性フィールドのデータが一致する、

アークの代表点、ノード、ポリゴン代表点、ポイント群の重み付き重心位置に新規ポイントを生成します。

## [ベクトルタイルインポート]ダイアログボックス オプション追加

[地理院地図]-[現在の表示領域のベクトルタイルデータを取得]-[道路中心線]-[汎用(一般)]

[ベクトルタイルインポート]ダイアログボックスへ、

「リクエストヘッダー追加情報」を追加いたしました。

認証キーなどを指定するリクエストヘッダーを指定して、ベクトルタイルを取得できます。

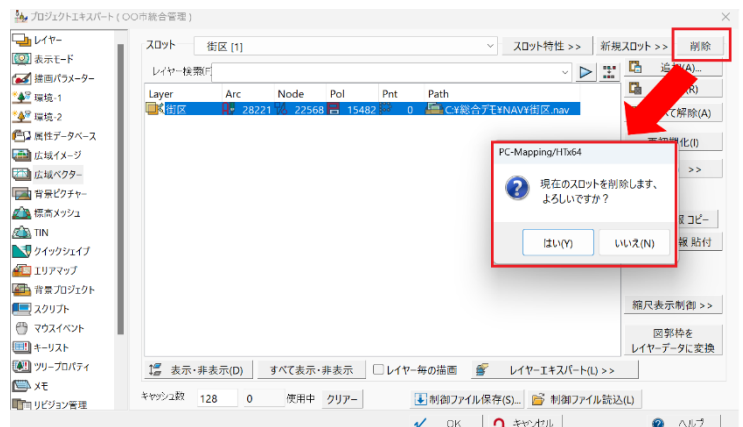


## [広域ベクター]パネルへ「削除」ボタンを追加

[プロジェクトエキスパート]-[広域ベクター]パネルへ

「削除」ボタンを追加しました。ボタンから現在のスロットが削除できます。

また、新規プロジェクト生成時のデフォルトのスロット数を 32 から 4 としました。



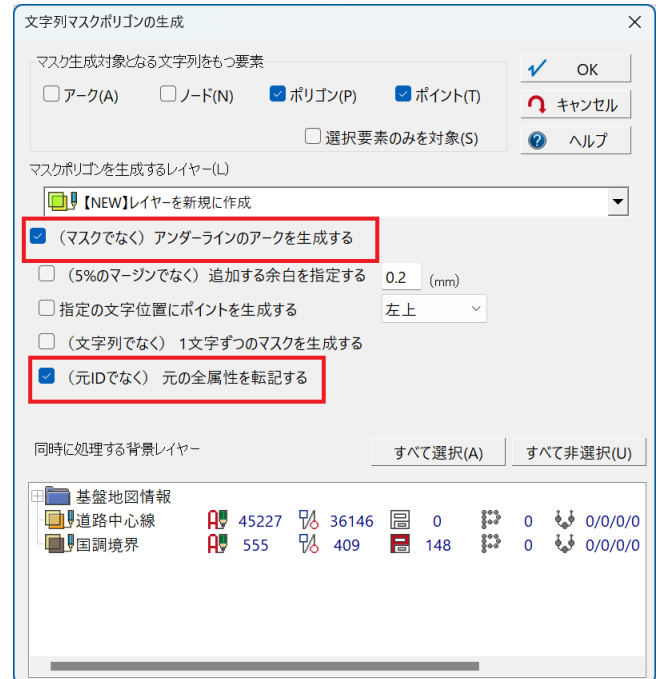
## [作図]-[多角形アーク]オプション追加

[ホーム]-[作図]-[アーク追加]-[多角形アーク]について、ALT キー+クリックでの直角補正を、最後の多角形を閉じる場所まで対応しました。この場合始点に合わせて補正されます。

## [文字列マスクポリゴンの生成]オプション追加

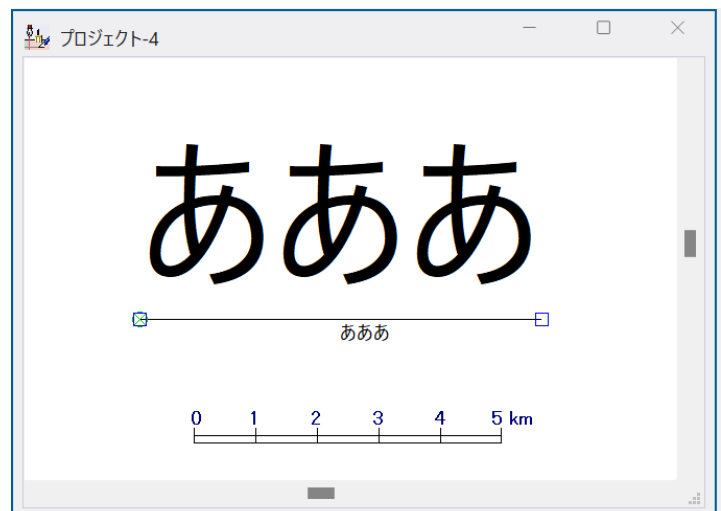
[編集]-[編集]-[編集作図]-[文字列マスクポリゴンの生成]ダイアログボックスにおいて、以下オプションを追加しました。

(マスクでなく)アンダーラインのアークを生成する  
(元 ID でなく)元の全属性を転記する



## [アークの表示文字列をアーク長に合わせた注記ポイントを生成]追加

[編集]-[編集]-[編集作図]-[アークの表示文字列をアーク長に合わせた注記ポイントを生成]を追加しました。アークの表示文字列から、アーク長に一致するようにフォントサイズを調整した注記ポイントのレイヤーを生成します。



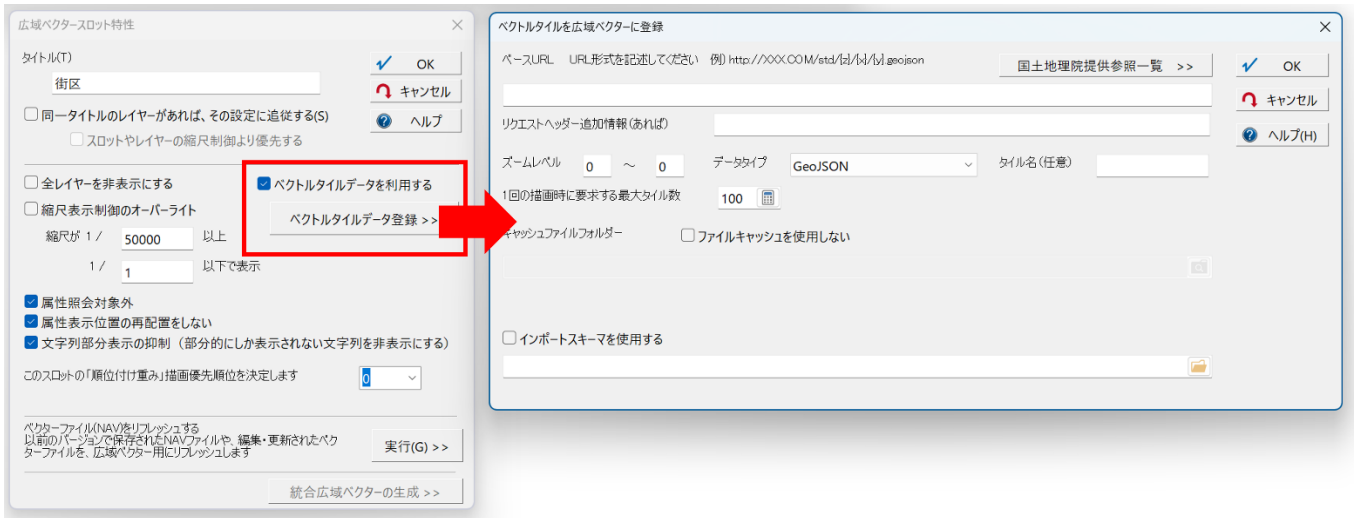


## 広域ベクターをキャッシュとして利用するベクトルタイルデータの自動ローディング機能

[プロジェクトエキスパート]-[広域ベクター]パネル【スロット特性】ボタン

[広域ベクタースロット特性]ダイアログボックスに「ベクトルタイルデータを利用する」チェックを追加しました。これが ON の場合、

【ベクトルタイルデータ登録>>】ボタンで開く、[ベクトルタイルを広域ベクターに登録]ダイアログで、ベクトルタイルの諸元をセットすることで、表示画面に対応するタイルをダウンロードし、PC-MAPPING のレイヤーデータ(nav)に変換して、広域ベクターとして表示、照会できます。



## プロジェクトキーリスト・コマンド定義追加

プロジェクトのキーリストに

**#COMMAND:(コマンド名)**

の登録があれば、(コマンド名)に対応して、キーリストの値がコマンド文字列として実行されます。

このコマンド定義方法で、プロジェクトに応じてその特性にあったコマンドを定義することができます。

## [UAV コース調整・出力]オプション追加

[ツール]-[UAV コース設計]-[オプション]-[UAV 飛行計画コース 調整・出力]

[UAV コース調整・出力]ダイアログボックスへ、

「元の補間点を保持する」チェックを追加しました。



## 計算フィールド関数追加

[属性フィールドの設定]ダイアログボックスへ、**計算フィールド**の関数として**DateFromString**(日付文字列, 0)を追加しました。  
文字列としての日付から、日付時刻型フィールドの内部表現データを取得します。

第1引数では、日付の文字列もしくはそのフィールドを指定します。

第2引数は

1: 時刻セパレーター は -

2: 時刻セパレーター は .

0: 時刻セパレーター は :

16: 日付セパレーターは -

32: 日付セパレーターは .

0: 日付セパレーターは /

通常は「0」を指定します。

## コマンド「VideoPlay2」オプション追加



コマンド「**VideoPlay2**」で開かれたウィンドウでの「10秒進める」「10秒戻す」ボタン機能に関して、

pcm.ini で

**[VideoPlayDlg]**

**StepSec=10**

の指定で、任意秒数を指定できます。

## [インポート]-[GeoCSV]追加

### [インポート]-[GEOCSV]追加

[インポート]-[汎用/GIS]へ[GeoCSV]を追加しました。  
GeoCSV形式のファイル(CSV / CSVT / PRJ)をインポートできます。

■[GeoCSV](#)

### [エクスポート]-[GEOCSV]

[インポート]-[汎用]へ[GeoCSV]を追加しました。  
ベクターデータを GeoCSV 形式のファイル(CSV / CSVT / PRJ)にエクスポートします。

■[GeoCSV](#)

## 「AttrSrchAll」コマンドオプション追加

全データ検索(ベクタープロジェクト)でのコマンド「AttrSrchAll」に、新型のコマンドオプションを追加しました。  
以下は従来のコマンドオプションと異なり、メインウィンドウと共存するモードレスダイアログとなります。

### -Proc△n

- 1:クリップボードへコピー
  - 2:選択要素リストを「選択状態」へ
  - 3:全てのリスト要素を「選択状態」へ を追加しました。  
(-Go/-GoAndClose と合わせて使用できます)
- ※△は空白

また、

**-GoAndClose** オプションを追加しました。  
こちらの指定で、「検索を実行してダイアログを閉じる」動きになります。  
(-Proc と合わせて使用します)

## [GeoTiff から MBTiles ファイルの生成]追加

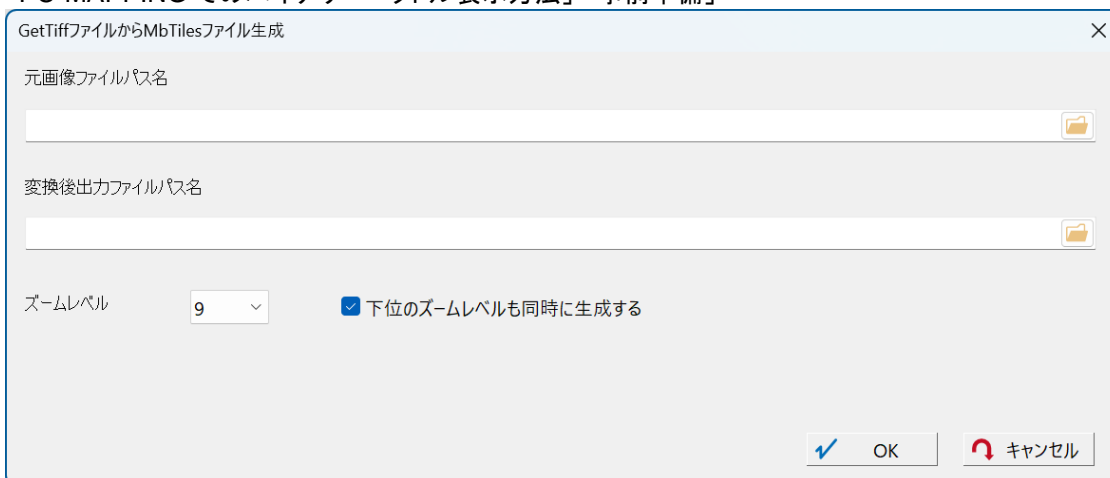
[システム]-[画像]へ、[GeoTiff から MBTiles ファイルの生成]を追加しました。  
このコマンドを実行するには、GDAL(Geospatial Data Abstraction Library)がインストールされている必要があります。

インストールの詳細につきましては、以下の記事をご参照ください。

■[MAPCOM WORLD TOPICS](#)

[ベクトルタイルの利点とは？](#)

「PC-MAPPING でのバイナリーベクトル表示方法」-「事前準備」



## [JPEG ファイル(属性フィールド)への位置座標付与]オプション追加

[ツール]-[画像ファイル]-[座標付与]-[JPEG ファイル(属性フィールド)への位置座標付与]において、属性フィールドに「方向」フィールドがある場合、それを基に、EXIF の撮影方向にも反映されるようにしました。また、「GPS 情報付き EXIF-JPEG ファイルの取り込み」の際にも、撮影方向が復元されます。

## [構成メッシュの結合]ダイアログボックスオプション追加

[標高]-[編集]-[構成メッシュの結合]ダイアログボックスへ、「現在の結合されたメッシュを解除する」「現在の結合されたメッシュ以外を抹消する」オプションを追加しました。

構成メッシュの結合

ベクターとのオーバーレイや可視、不可視マップを作成するにあたっては、標高メッシュを結合して1メッシュのプロジェクトを作成します

対象標高メッシュ [1] 地理院タイル\_z13

結合する際の、解像度を指定します

高解像度 (登録メッシュの最高解像度)

中解像度

低解像度

結合後、他の標高メッシュを抹消する

指定の解像度 15.9 (m)

実行するにはおよそ 15 MBのメモリを必要とします

現在の結合されたメッシュを解除する 結合前のメッシュが残存している必要があります。

現在の結合されたメッシュ以外を抹消する

OK キャンセル ヘルプ

## [エクスポート]-[GeoPackage(GPKG)ファイル]追加

[エクスポート]-[汎用]-[GeoPackage(GPKG)ファイル]を追加しました。

GeoPackage(GPKG)形式のファイルにエクスポートできます。

### ■GeoPackage

このメニューを実行するには、GDAL(Geospatial Data Abstraction Library)のインストールが必要です。GDAL のインストールについては以下をご参照ください。

### ■MAPCOM WORLD TOPICS

[ベクトルタイルの利点とは？](#)

## 起動オプション追加

PC-MAPPING の起動オプションを追加しました。

[書式]

**-FastBoot△para**

※△は半角スペース

para には、以下の文字の任意の組み合わせ文字列を指定します。

**使用例:-FastBoot△HVQPR**

H: HTML バー、HTML メニューバー を生成しない

V: BingMap バー を生成しない

C: 地理院地図バー を生成しない

T: タスクメニューバー を生成しない

Q: クイックバー を生成しない

J: タスクバージャンプリスト を生成しない

P: (使用可能な)プリンターリスト を生成しない

R: リボンバー を生成しない

生成処理を省略することで、PC-MAPPING の起動時間を短縮できます。

ただし、起動後の追加生成や表示が行えないため、再表示するには、PC-MAPPING の再起動が必要です。

起動オプションについての詳細は以下をご参照ください。

■ヒント集

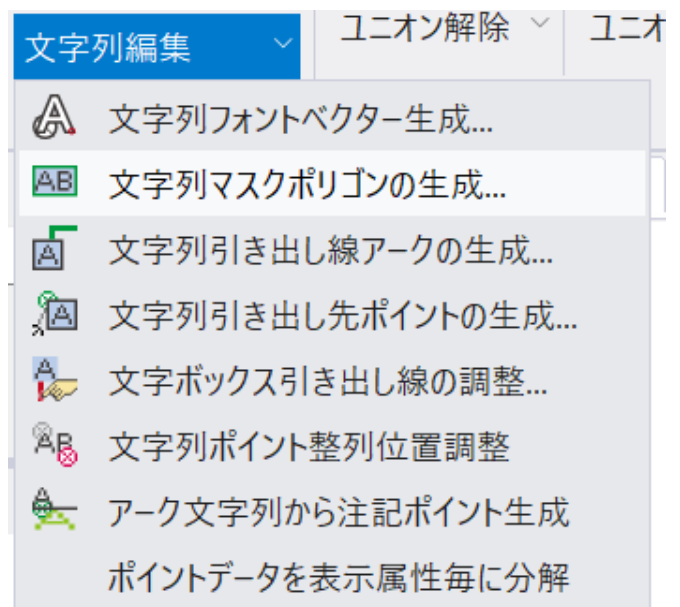
[起動オプション一覧 \[概要\]](#)

## [編集]-[文字列編集]メニューの追加

[編集]-[編集]-[文字列編集]メニューを追加し、

従来「編集作図」メニューにあった以下のものを移動しました。

- 文字列フォントベクター生成
- 文字列マスクポリゴンの生成
- 文字列引き出し線アークの生成
- 文字列引き出し先ポイントの生成
- 文字ボックス引き出し線の調整
- 文字列ポイント整列位置調整
- アーク文字列から注記ポイント生成

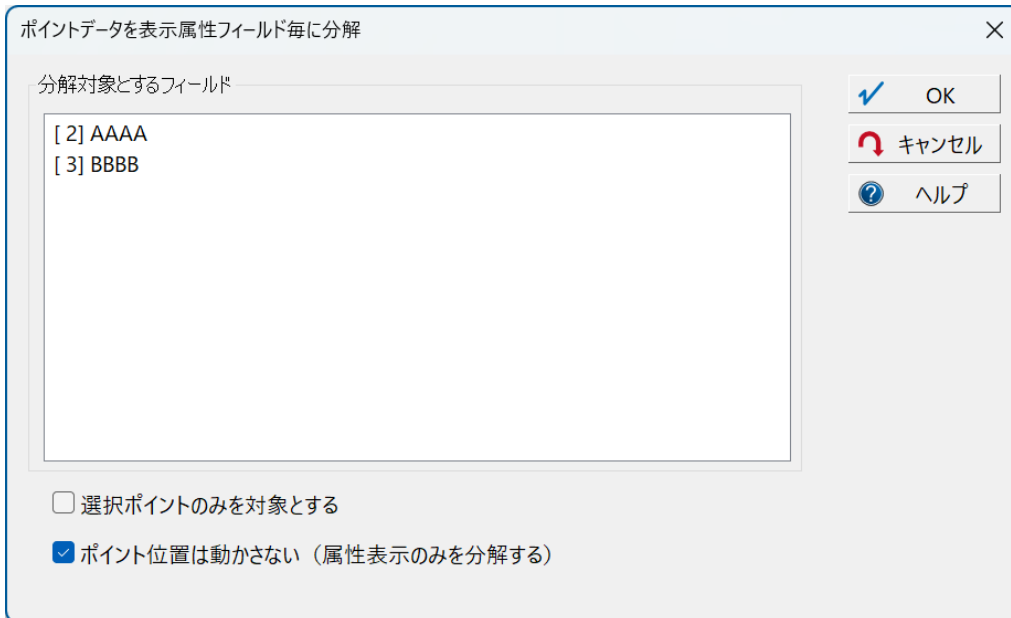


## [ポイントの表示文字列毎にポイントレイヤーを生成]追加

[編集]-[編集]-[文字列編集]へ、

[ポイントの表示文字列毎にポイントレイヤーを生成]を追加しました。

ポイントの表示文字列ごとに、注記ポイントのレイヤーを生成します。また、属性フィールドは元のレイヤーにある全てのフィールドが転記され、表示設定状態のみが、レイヤーに合わせて調整されます。



ポイントデータを表示属性フィールド毎に分解

分解対象とするフィールド

- [ 2 ] AAAA
- [ 3 ] BBBB

選択ポイントのみを対象とする

ポイント位置は動かさない (属性表示のみを分解する)

OK  
キャンセル  
ヘルプ

## [集計・統計処理]・[クロス集計]表示の変更

[データベース]-[編集]-[演算・集計]-[集計・統計処理]

[データベース]-[編集]-[演算・集計]-[クロス集計]

列挙型フィールドに関して、結果のデータベース上での表示を、キー値ではなく、文字列に変更しました。

[プロジェクトエキスパート]-[キーリスト]パネルへ、@SuspendSizeChange を登録することで、そのプロジェクトを開いた際に、ウィンドウサイズの変更などを抑制する機能を追加しました。

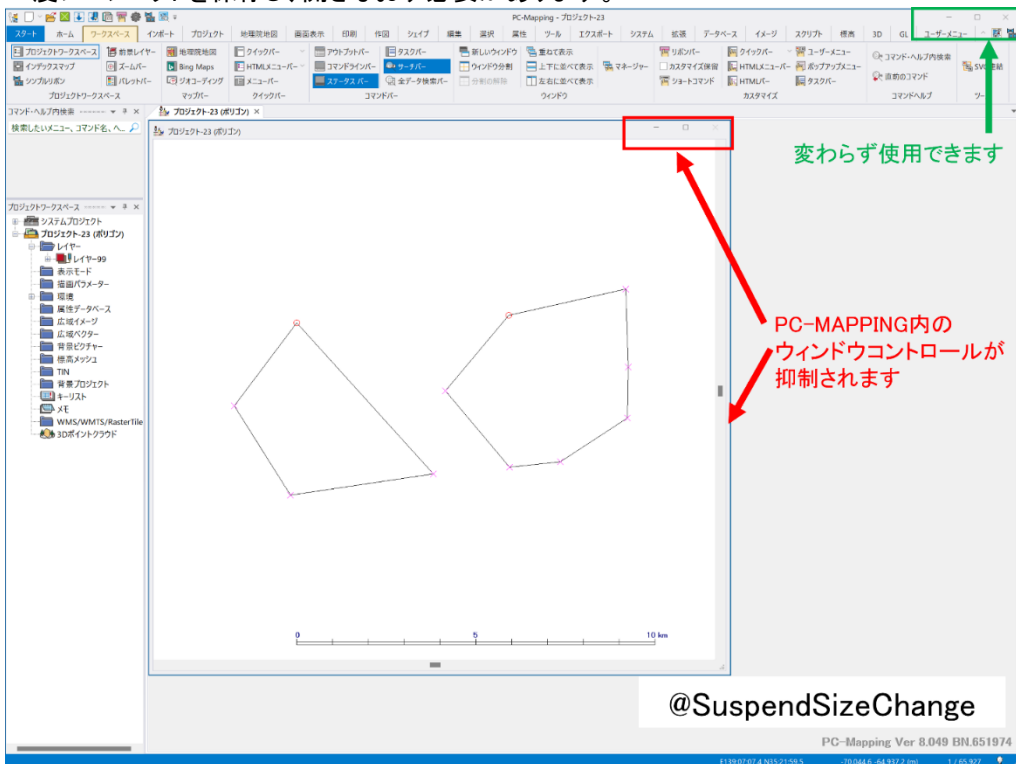
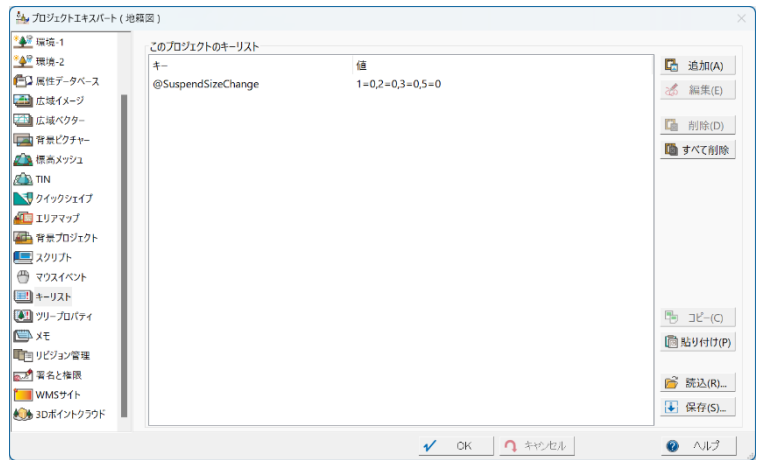
キー @SuspendSizeChange  
 値 以下ご参照ください

- ID: ウィンドウの各種機能  
 0 = 元のサイズに戻す  
 1 = 移動  
 2 = サイズ変更  
 3 = 最小化(アイコン化)  
 4 = 最大化  
 5 = 閉じる

それぞれに対し、  
 0 で 使用不可 / 1 で使用可になります。  
 連続して表記する際のセパレーターは、  
 空白、カンマ、セミコロンが有効です。

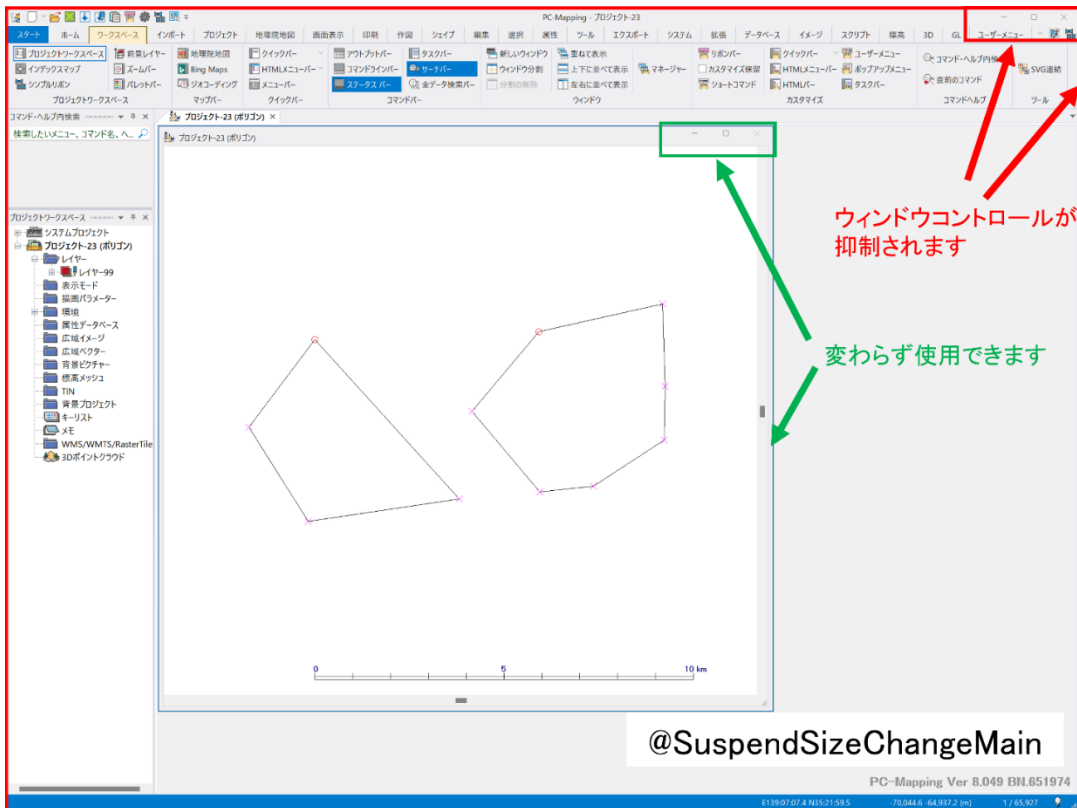
例: 移動不可・サイズ変更不可・最小化不可・閉じる不可  
 キー @SuspendSizeChange  
 値 1=0,2=0,3=0,5=0

※キーリストの再設定を行うタイミングが、  
 「プロジェクトを開く」タイミングになりますので、  
 一度プロジェクトを保存し、開きなす必要があります。



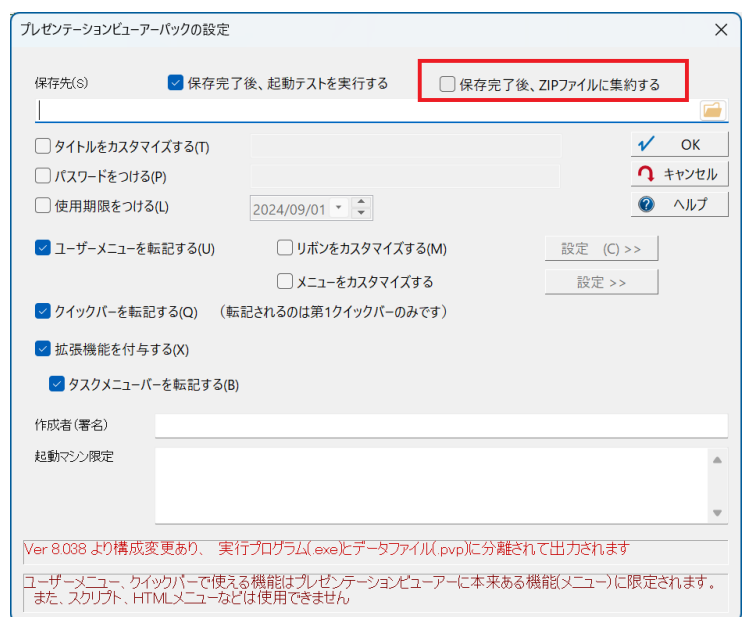
## [プロジェクトエキスパート]-[キーリスト]へメイン画面抑制追加

[プロジェクトエキスパート]-[キーリスト]パネルへ、@SuspendSizeChangeMain を登録することで、そのプロジェクトを開いた際の、メインフレームウィンドウサイズの変更などを抑制する機能を追加した。キーリストの登録方法は、上記の @SuspendSizeChange と同様です。



## [PVP 設定]-「保存完了後、ZIP ファイルに集約する」追加

[プレゼンテーションビューアーパックの設定] ダイアログボックスへ、「保存完了後、ZIP ファイルに集約する」チェックボックスを追加しました。ON の場合、PVP ファイル群を ZIP ファイルに集約し、作成した ZIP ファイルをエクスプローラー上で展開します。



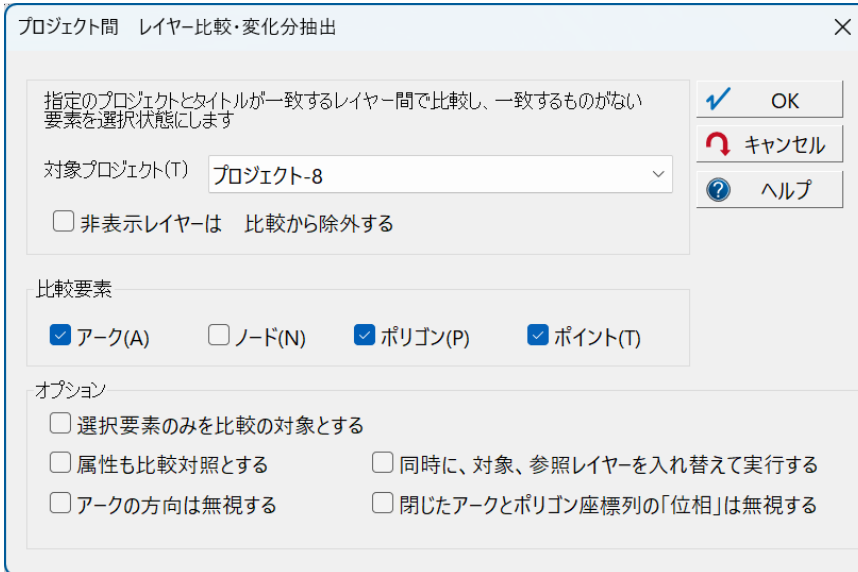


[プロジェクト間レイヤー比較]追加

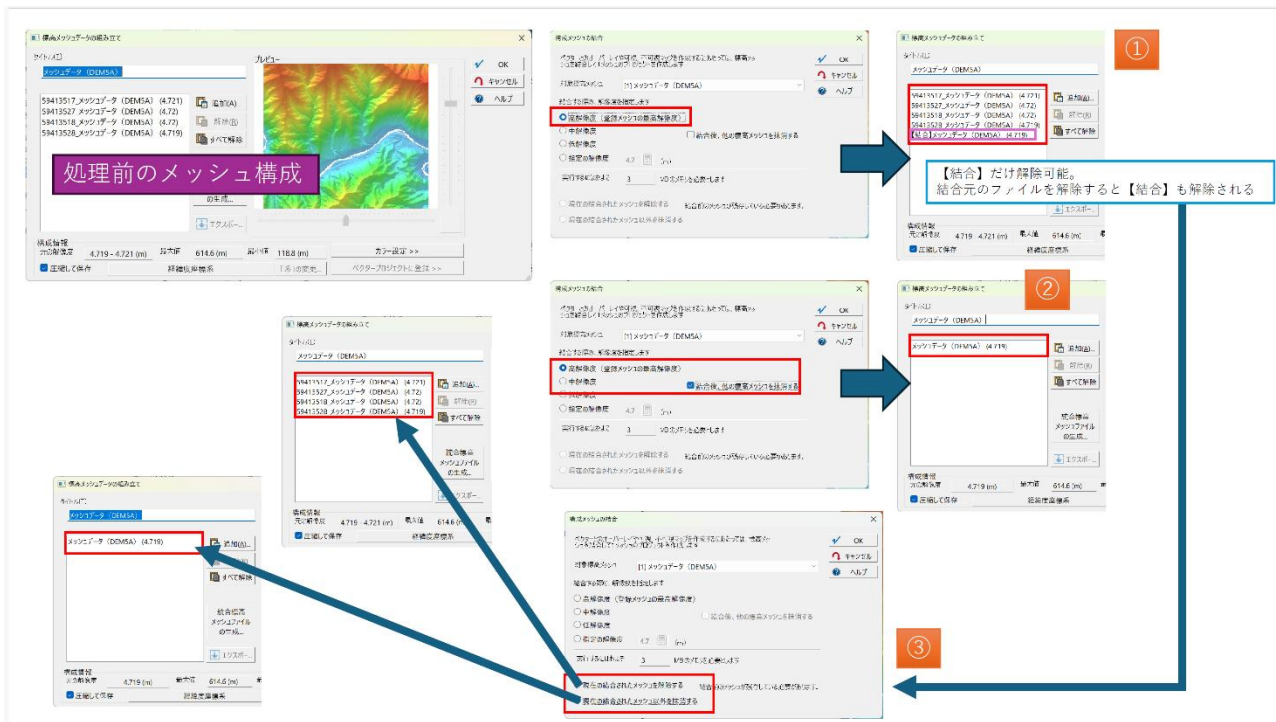
[ツール]-[領域検索]-[比較・抽出]-[プロジェクト間レイヤー比較]を追加しました。

現在アクティブなプロジェクトと、他のプロジェクト間で同一タイトルのレイヤーを比較して、一致するものがない要素を選択状態にします。

該当レイヤーは、「メッセージ」ウィンドウに表示されます。



[標高]-[編集]-[構成メッシュの結合]機能追加



[標高]-[編集]-[構成メッシュの結合]

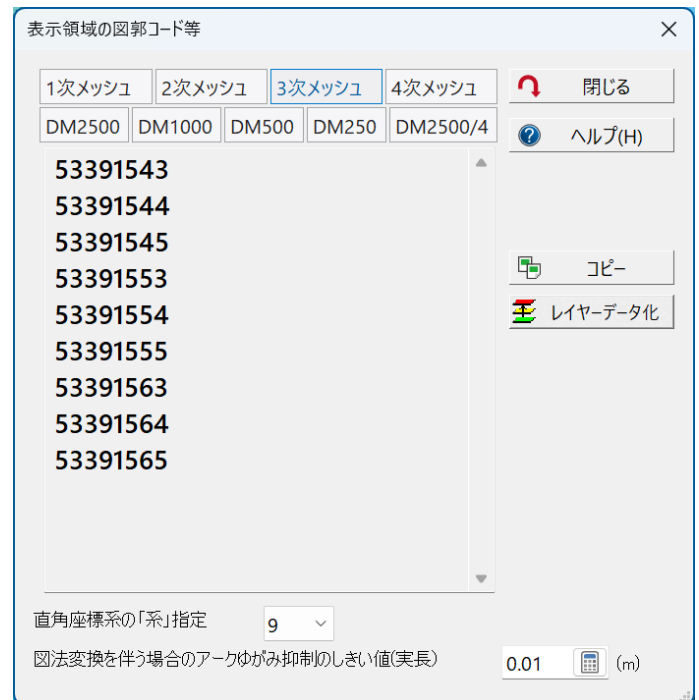
[編集]-[標高メッシュ]-[編集]-[構成メッシュの結合]に関して、結合されたメッシュと元のメッシュデータ両方が存在する場合は、標高メッシュ構成のリストに、【結合】(元のメッシュ名)として表記されます。

※標高メッシュ構成のリストは、

[プロジェクトエキスパート]-[標高メッシュ]パネルより【ウィンドウ表示】を行い、その後[標高]-[設定]-[標高メッシュプロジェクトの設定]より確認いただけます。

## 図郭コード等算出(コンパクト表示)追加

[ツール]-[表示領域]-「図郭コード(2)」(図郭コード等算出(コンパクト表示))を追加しました。  
現在表示されている領域のメッシュコードと、各縮尺の DM 図郭コードのリストをコンパクトなダイアログで表示します。



## [GPS ログファイル(複数可)と対応する動画ファイルとのリンク]を追加

[システム]-[GPS]-[GPS ログファイル(複数可)と対応する動画ファイルとのリンク]を追加しました。  
GPS ログファイル(※複数可)と対応する動画ファイルをリンクした、プロジェクト・レイヤーを新規作成し、ベクターデータ(アーク・ポイント)を生成します。生成したベクターレイヤーのポイント属性照会から【リレーション】ボタンで動画再生が可能です。

また、以下のオプションを追加しました。

- ExifTool がインストールされている場合、GPS 情報付き動画ファイルから GPX ファイルを抽出する
- ffmpeg がインストールされている場合、実行時に高速に動画再生するための解像度調整動画ファイルの生成
- 登録された複数動画ファイルを1つのファイルに結合する

詳細につきましては、[GPS ログとビデオファイルとのリンクデータ生成]ダイアログボックス内のヘルプをご参照ください。



## [同一属性要素間アーク作図]コマンドオプション追加

### [編集]-[編集]-[編集作図]-[同一属性要素間アーク作図]

コマンド **AttrArcDraw** にコマンドオプションを追加しました。

詳細につきましては、[同一属性要素間アーク作図]ダイアログボックス内ヘルプをご確認ください。

## [TIN、標高メッシュからの Z 値付与]コマンドオプション追加

### [編集]-[編集]-[Z 値]-[TIN、標高メッシュからの Z 値付与]

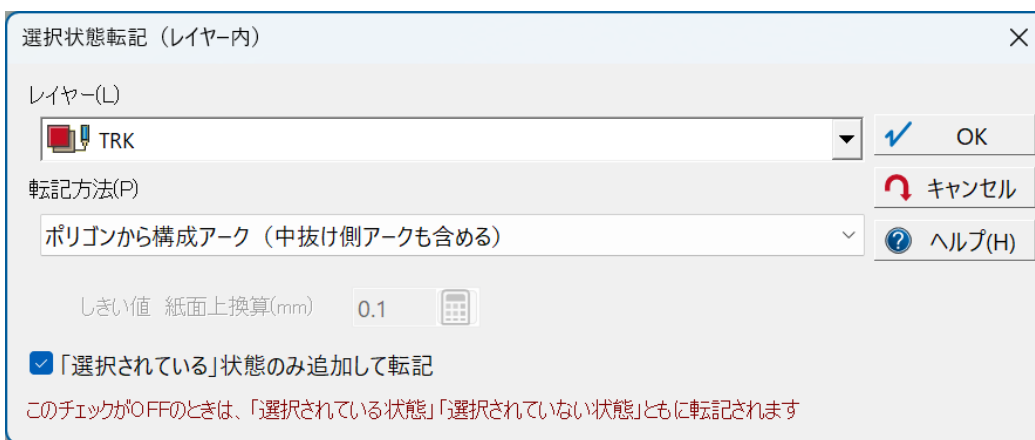
コマンド **ZFromTin2** のコマンドパラメーターを整理し追加しました。

詳細につきましては、[TIN レイヤーから Z 値付与]ダイアログボックス内ヘルプをご参照ください。

## [選択状態転記(レイヤー内)]へ転記方法の追加

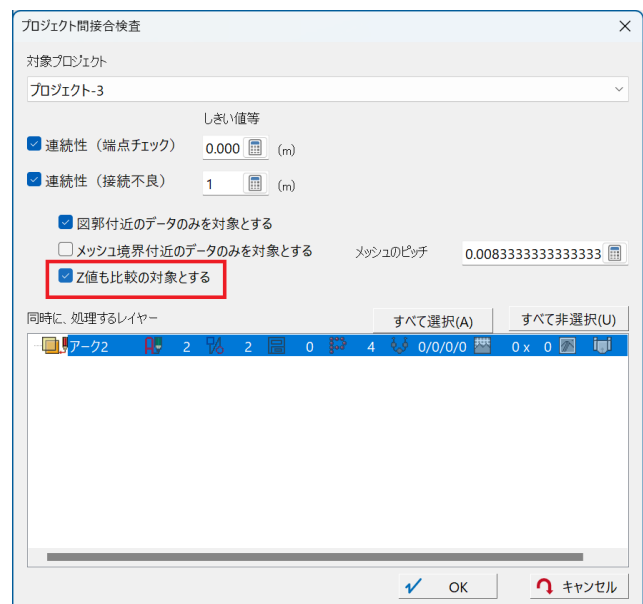
[選択]-[転記]-[選択状態転記(レイヤー内)]の転記方法へ、「ポリゴンから構成アーク(中抜け側アークも含める)」を追加しました。

※従来メニューの「ポリゴンから構成アーク」では、中抜け側アークへは転記されません。



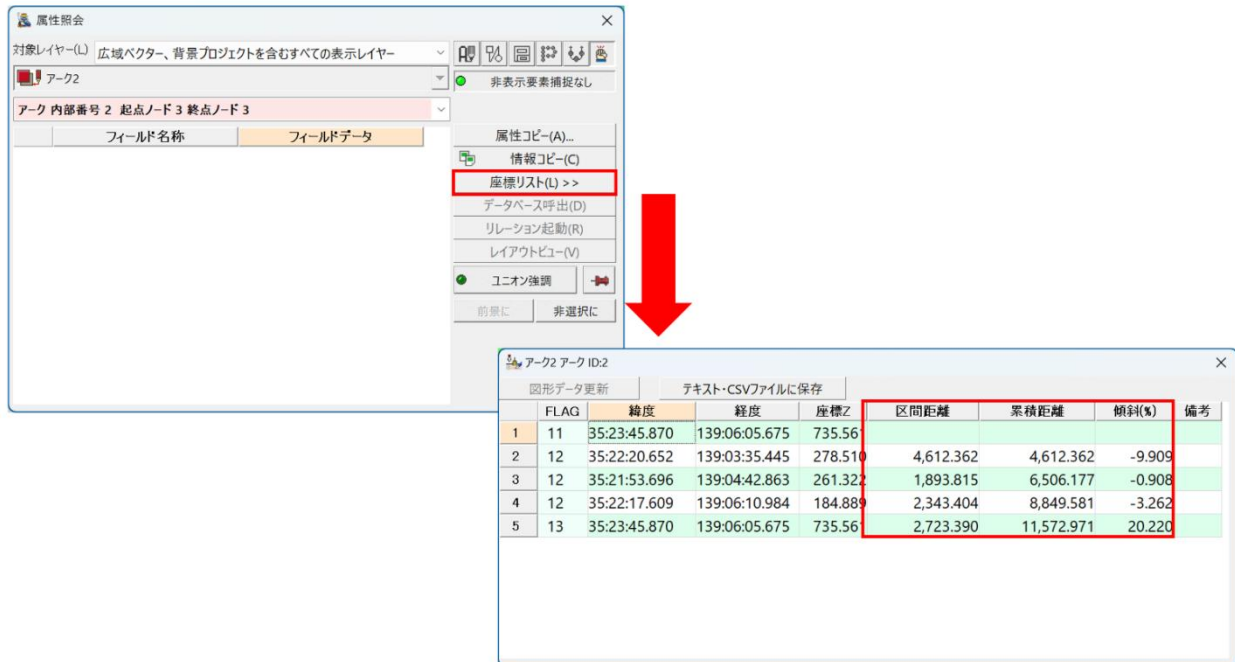
## [プロジェクト間接合チェック]-[Z 値比較]追加

[ツール]-[領域検索]-[比較・抽出]-[プロジェクト間接合チェック]へ、「Z 値も比較の対象とする」オプションを追加しました。



## [アーク属性照会]ダイアログ-[座標リスト]ウィンドウへ表示の追加

[属性]-[照会]-[アーク属性照会]ダイアログ-[座標リスト]ボタン-[座標リスト]ウィンドウへ、アークの座標列に**区間距離・累積距離**を追加しました。  
また、有効な Z 値がある場合、**区間(アークセグメント)毎の傾斜(%)**も表記します。



## 「360 度のパノラマ写真 JPEG ファイル」の GPANO タグに関する追加

360 度のパノラマ写真 JPEG ファイルに格納される **GPANO タグ** ※の情報につきまして、  
ExIfTool がインストール済みであり、なおかつ Pcm.ini ファイルで、以下の設定がされている場合、

**[SystemEnvMgr]**

**JpegInfoEx=1**

読み込み時に GPANO タグ情報をキーリストに格納し、保存する際はキーリストにある GPANO 情報が復元されます。

※

Projection Type

Use Panorama Viewer

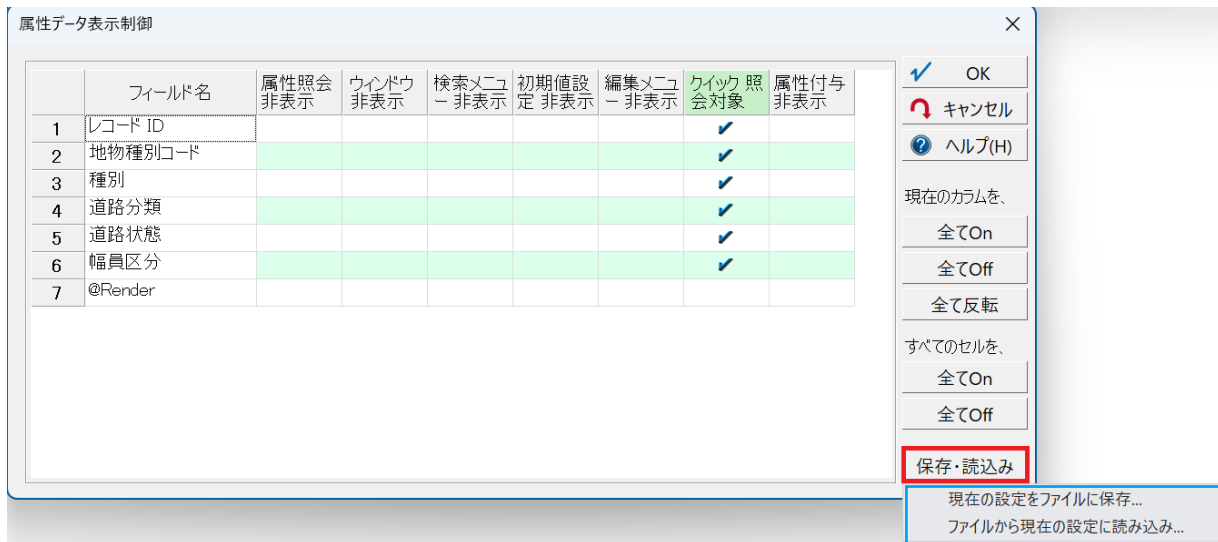
Cropped Area Image Width Pixels

Cropped Area Image Height Pixels など

[属性データ表示制御]ダイアログボックス-「保存・読み込み」の追加

[属性データベース設定]-[データベースの設定]パネル-【表示制御】ボタン  
 [レイヤーエキスパート]-[ベクター]パネル-【表示制御】ボタン  
 [属性データ表示制御]ダイアログボックスへ、「保存・読み込み」ボタンを追加しました。

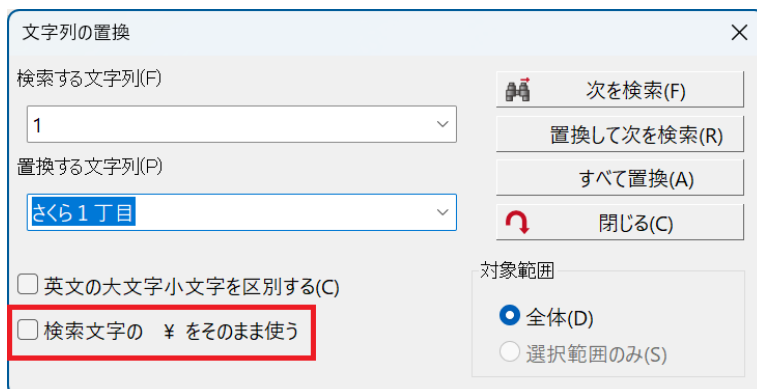
「現在の設定をファイルに保存」、「ファイルから現在の設定に読み込み」を選択することで、現在の表示制御の設定情報を、指定のファイル(XML形式)に保存できます。  
 また、保存したファイルから、読み込んで復元も行えます。



[データベース]-「検索文字の ¥ をそのまま使う」チェックボックスを追加

[データベース]-[編集]-[検索・置換]-[セルの検索]  
 [データベース]-[編集]-[検索・置換]-[フィールド検索]  
 [データベース]-[編集]-[検索・置換]-[セルの置換]  
 [データベース]-[編集]-[検索・置換]-[フィールド置換]へ、  
 「検索文字の ¥ をそのまま使う」チェックボックスを追加しました。

このチェックボックスを ON にすることで、通常改行コードとして認識している、「¥n」のような文字列を検索することができます。



## メニューにないコマンド「ViewSplit」を追加

メニューにないコマンド **ViewSplit** を追加しました。  
ベクターウィンドウを分割・解除できます。

ViewSplit△-Row△ (\*分割位置)・・・縦方向に分割する

ViewSplit△-Col△ (\*分割位置)・・・横方向に分割する

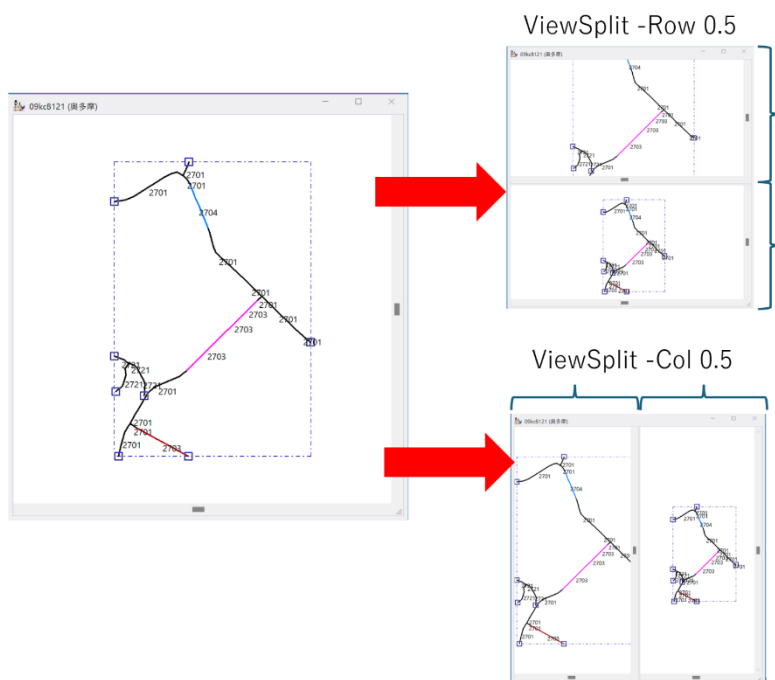
ViewSplit△-Row△ (\*分割位置)△-Col (\*分割位置)・・・縦横方向に4分割する

(\*分割位置)・・・ウィンドウ全体に対する相対位置を 0.1 ~ 0.9 の範囲 で入力します

ViewSplit -Off ...分割状態を解除する

例:ViewSplit△-Row△0.5 ベクターウィンドウを縦方向半分に分割する

※△は空白



## [印刷]-[印刷実行]-[プレビュープロパティ]の追加

[印刷]-[印刷実行]-[プレビュープロパティ]を追加しました。  
印刷プレビューとして開くウィンドウのタイプやイメージの解像度を指定できます。

また、この設定は pcm.ini ファイルに保存され、起動環境として次回以降も適用されます。



## 「シェープファイル」インポート時の UTF8 の変換追加

### 【インポート】-【汎用/GIS】-【シェープ】-【ArcView シェープファイル】

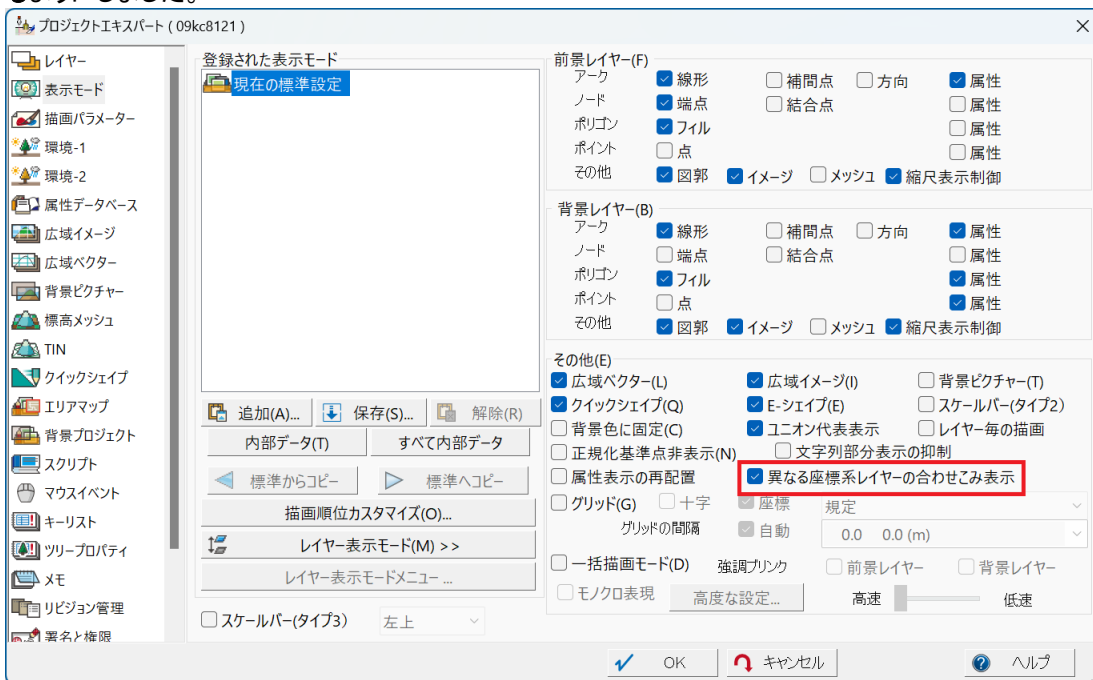
シェープファイルのインポートにおいて、以下の場合、属性ファイル (\*.dbf) の内容を自動判別し、必要に応じて UTF8 からの変換処理を行うようにしました。

- オプションの「UTF8」が OFF であり、\*.cpg ファイルが存在しない場合
- 国土数値地図のインポートのように、「UTF8」オプションの設定がなく、\*.cpg ファイルが存在しない場合

この自動判定処理は、pcm.ini ファイルにおいて、  
[ShpImport2]  
UTF8Auto=0 を設定することで、無効にできます。

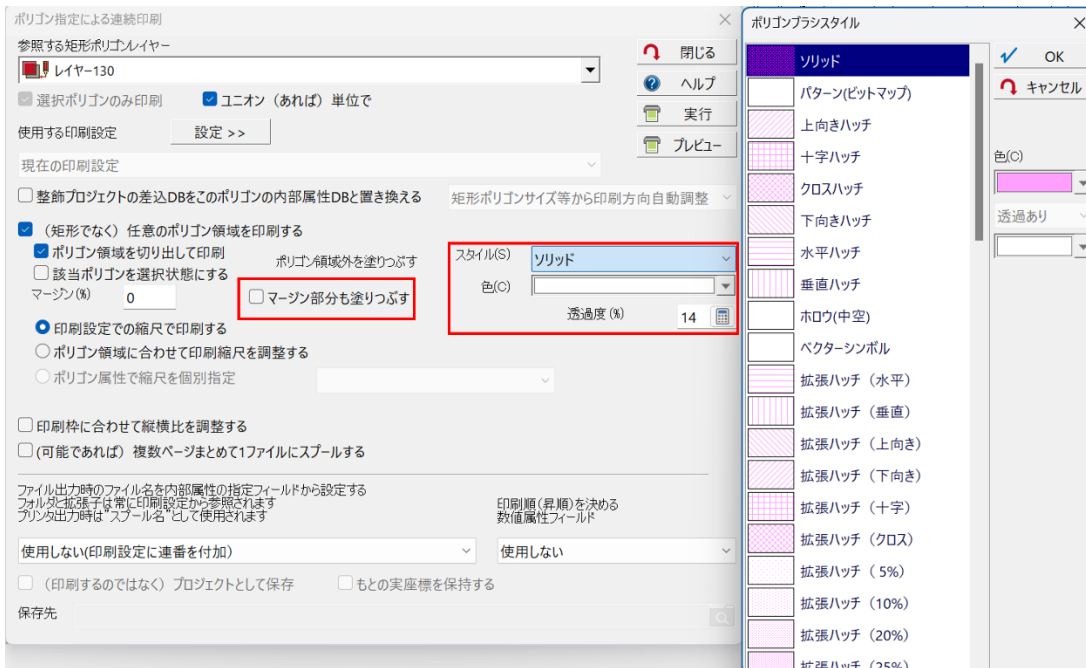
## 作図時のスナップ処理、対応オプションの追加

【作図】-【作図補助】-【スナップ設定】作図時のスナップ処理において、【プロジェクトエキスパート】-【表示モード】パネルで「異なる座標系レイヤーの合わせこみ表示」が ON の場合は、異なる座標系のレイヤーに対してもスナップ処理が行われるようにしました。



## [矩形ポリゴン指定による連続印刷]オプション追加

[印刷]-[印刷実行]-[矩形ポリゴン指定による連続印刷]-「ポリゴン領域外を塗りつぶす」オプションにつきまして、[マージン部分も塗りつぶす]チェックボックスを追加しました。  
また、塗りつぶしにおいて他のブラシスタイルも指定できるようにしました。



## 計算フィールド 環境変数追加

[属性フィールドの設定]ダイアログボックス -「計算フィールド」に以下の環境変数を追加しました。

**\$SelRecNum** : 選択レコード数

**\$SelRecIndex** : 選択レコードの中でのインデックス

## Proc 系コマンド追加

[メニューにないコマンド]-[Proc 系コマンド]

「Proc△Layer」に、フィールドの追加・削除機能・一部設定機能を追加しました。

詳細につきましては、PC-MAPPING ヘルプ-[メニューにないコマンド]-[Proc 系コマンド]

「Proc Layer」を参照してください。

## インポート機能更新

[インポート]-[国土地理院]-[数値地図(画像)]へ、[電子地形図 50000 PDF 形式]を追加しました。

電子地形図 50000 PDF 形式をインポートし、画像データを広域イメージに登録したプロジェクトを生成します。

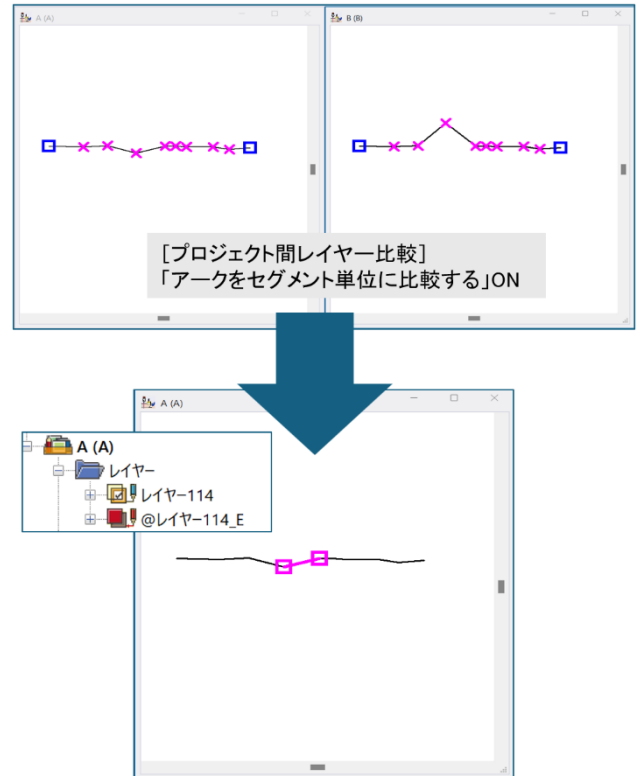


## [プロジェクト間レイヤー比較]オプション追加

[ツール]-[領域検索]-[比較・抽出]-[プロジェクト間レイヤー比較]において、「**アークをセグメント単位に比較する**」チェックを追加しました。

これが ON の場合、アークは座標列としてではなく、アークの補間点毎に、同一座標点があるかを検索します。

また、差分として、連続した不一致点はアークに、1 点のみの不一致はポイントとして、「@'+(元レイヤー名)+'\_E」のレイヤーに転記されます。



## [背景イメージ・統合広域イメージをポリゴンで連続切り出し]オプション追加

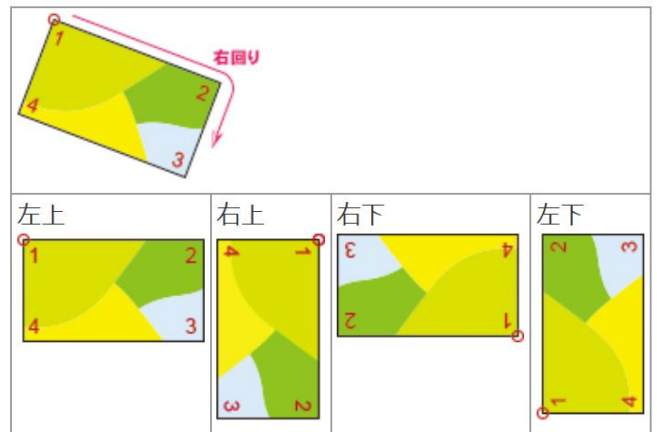
[編集]-[編集]-[背景イメージ]-[背景イメージ・統合広域イメージをポリゴンで連続切り出し]へ、「**長方形ポリゴンから切り出す場合、回転パラメーターを使って切り出す**」オプションを追加しました。

オプションが有効で、長方形のポリゴンと判定した場合\*は、指定のポリゴンで切り出しを行います。

切り出した画像は回転していないため、座標情報として回転パラメーターをセットします。

この場合、ポリゴンの第 1 点(始点)が画像の左上、第 2 点が右上、第 3 点が右下、第 4 点が左下として処理されます。

\*長方形判断基準＝補間点が始終点含めて 5 で、対辺の長さが等しいかどうか



## 「ルック&フィール」の設定 廃止モード追加

[システム環境設定]-[ルック&フィール]パネル-「ルック&フィール」の設定に関して、表示非推奨の「WindowsXP」～「Carbon Black」までを基本廃止しました。

一度でも、Office2010 以降のものを選択した場合、それ以前のものとは選択できなくなります。

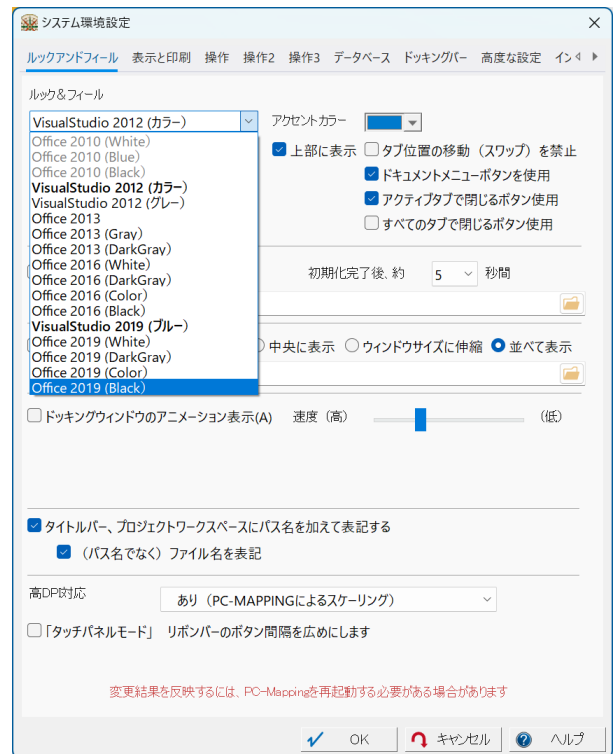
加えて新たに Office2010 を非推奨扱いとしました。

非推奨とはなりますが、

pcm.ini ファイルにて、以下を追加することで廃止されたモードも再度選択可能となります。

[SystemEnvMgr]

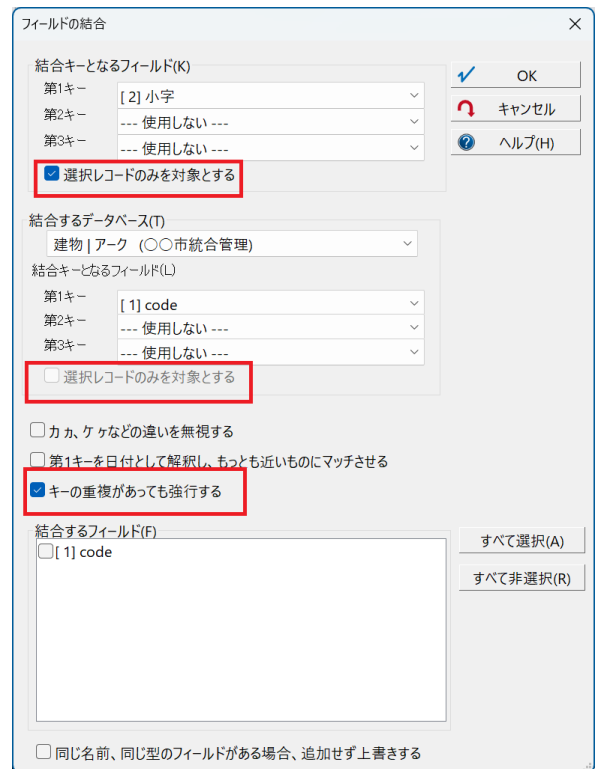
VisualMode=0



## [フィールド結合]オプション追加

[データベース]-[編集]-[編集]-[フィールド結合]において、「選択レコードのみを対象とする」チェックを、結合先・結合元の両方に追加しました。

また、「キーの重複があっても強行する」オプションを追加しました。



## [フィールド照合・転記]オプション追加

[データベース]-[編集]-[編集]-[フィールド照合・転記]において、「**選択レコードのみを対象とする**」チェックを、「照合・転記先」、「照合・転記元」の両方に追加しました。

フィールドの照合・転記

キーとなるフィールド(K)

第1キー [ 1 ] 大字

第2キー --- 使用しない ---

第3キー --- 使用しない ---

選択レコードのみを対象とする

照合・転記するフィールド(F)

[ 1 ] 大字

[ 2 ] 小字

[ 3 ] 地番

[ 4 ] 所有者

[ 5 ] 耕作者

[ 6 ] 現況面積

[ 7 ] 登記面積

[ 8 ] 現況地目

[ 9 ] 登記地目

照合・参照されるデータベース(T)

[ 1 ] 公共施設種別区分

キーとなるフィールド(L)

第1キー [ 1 ] CODE

第2キー --- 使用しない ---

第3キー --- 使用しない ---

選択レコードのみを対象とする

カカ、ケケなどの違いを無視する

照合するだけで、転記処理はしない

照合で不一致のレコードを選択状態にする

キーが不一致で照合・転記できないレコードを選択状態にする

参照されないレコードは新規のレコードとして転記する

OK

キャンセル

ヘルプ(H)

すべて選択(A)

すべて非選択(R)

## [明るさの均一化]処理方法改善

[イメージ]-[変換]-[輝度調整]-[明るさの均一化]において、処理方法を改善しました。

## [16ビット階調 TIFF ファイルを 8ビットカラー-TIFF に変換]追加

[システム]-[画像]-[画像入力変換]へ、  
[16ビット階調 TIFF ファイルを 8ビットカラー-TIFF に変換]を追加しました。  
複数の 16ビット階調の TIFF ファイルを、8ビットカラーに変換して保存できます。

## PC-MAPPING の起動オプションの追加

PC-MAPPING の起動オプションを追加しました。

[書式]

**-FastBoot△para**

※△は半角スペース

para には、以下の文字の任意の組み合わせ文字列を指定します。

**使用例:-FastBoot△HVQPR**

H : HTML バー、HTML メニューバー を生成しない

V : BingMap バー を生成しない

C : 地理院地図バー を生成しない

T : タスクメニューバー を生成しない

Q : クイックバー を生成しない

J : タスクバージャンプリスト を生成しない

P : (使用可能な)プリンターリスト を生成しない

R : リボンバー を生成しない

**W : WebView2 機構をロードしない** を追加しました。

生成処理を省略することで、PC-MAPPING の起動時間を短縮できます。

ただし、起動後の追加生成や表示が行えないため、再表示するには、PC-MAPPING の再起動が必要です。

起動オプションについての詳細は以下をご参照ください。

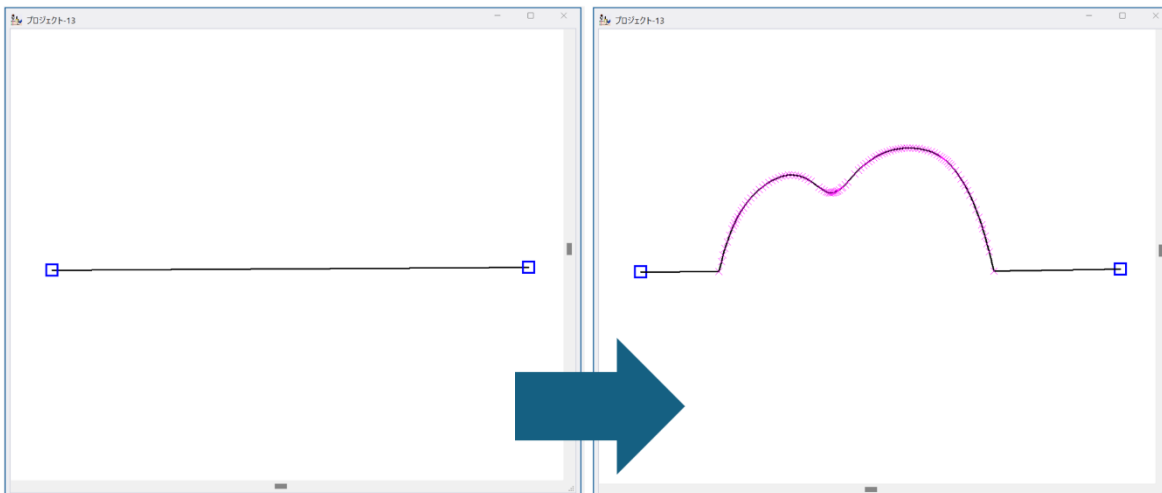
■ヒント集

[起動オプション一覧 \[概要\]](#)

## [アーク部分作図編集(スプライン)]追加

[作図]-[アーク・ノード]-[アーク部分作図編集(スプライン)]を追加しました。

既存のアークにスプライン補間が行えます。



ベクターデータと地理院地図等の重ね合わせに関して、表示の変更を行いました。

地理院地図は JGD2000/2011 相当の準拠楕円体での Web メルカトル図法で作成されているため、従来、PC-MAPPING では、JGD2000 ではない座標系のベクターに対しては、地理院地図を表示しないようにしておりました。

こちらは表示を行ってもズレてしまうためです。

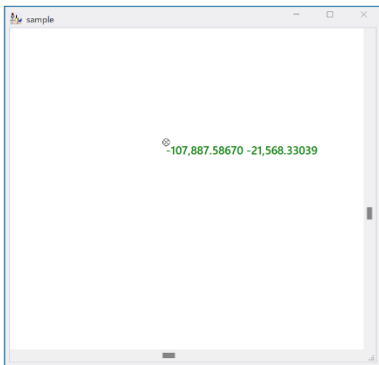
今回の更新では、「表記上 JGD2000 ではないが、実データは JGD2000 になっている」といったデータの対応のため、地理院地図の表示を行うように変更しました。

表示の際、データが直角座標の場合は、投影変換による合わせこみが必要となりますが、JGD2000 と日本測地系(TKY)は準拠楕円体が異なるため、投影変換後の位置は 4m 程度ズレて表示されます。そのため、直角座標では日本測地系(TKY)と地理院地図等の重ね合わせは非表示としております。

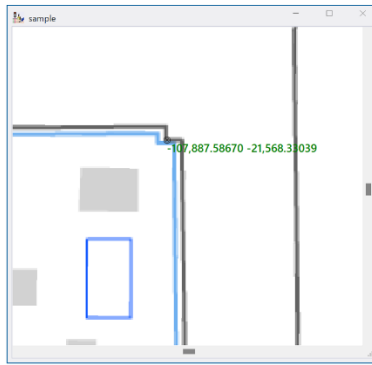
重ね合わせた表示をする場合は、ini ファイルに以下を追記することで、強制的に、「前景レイヤーは JGD2000」と想定して重ね合わせた描画が行えます。

```
[SystemEnvMgr]
WebMercatorTileForceDraw=1
```

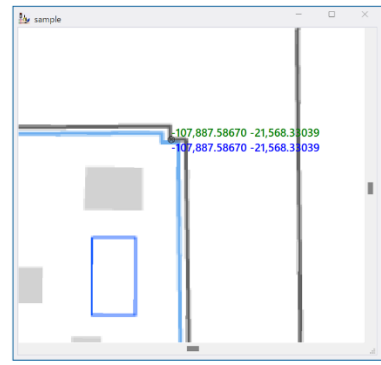
前景（他はなし）が、TKYで  
特に設定なしの場合  
＝地理院地図は非表示になります



前景がTKYでINIを追記  
＝地理院地図と重なって表示できます

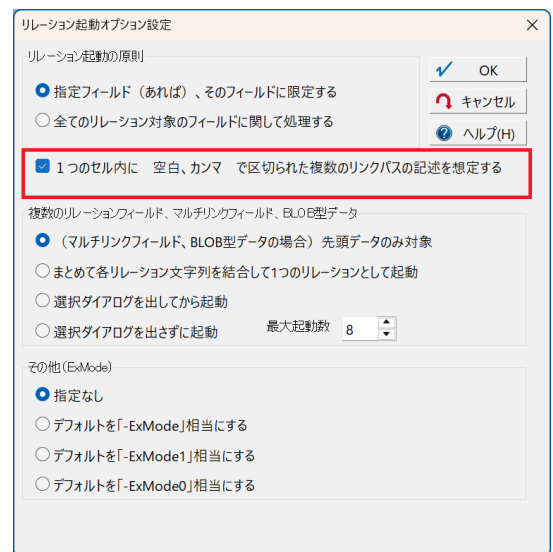


前景レイヤーがJGD2000であれば、  
INIがなくても、  
TKYレイヤーと地理院地図が表示されます



## [リレーション起動のオプション設定]設定追加

[スタート]-[リレーション起動のオプション設定]に、「1つのセル内に 空白、カンマ で区切られた複数のリンクパスの記述を想定する」チェックを追加しました。これが ON でリレーション起動を行う場合、フィールド内の文字列を空白かカンマで区切り、リレーション起動を試みます。なお、空白やカンマが含まれるパス名等は "〇〇" で括る必要があります。

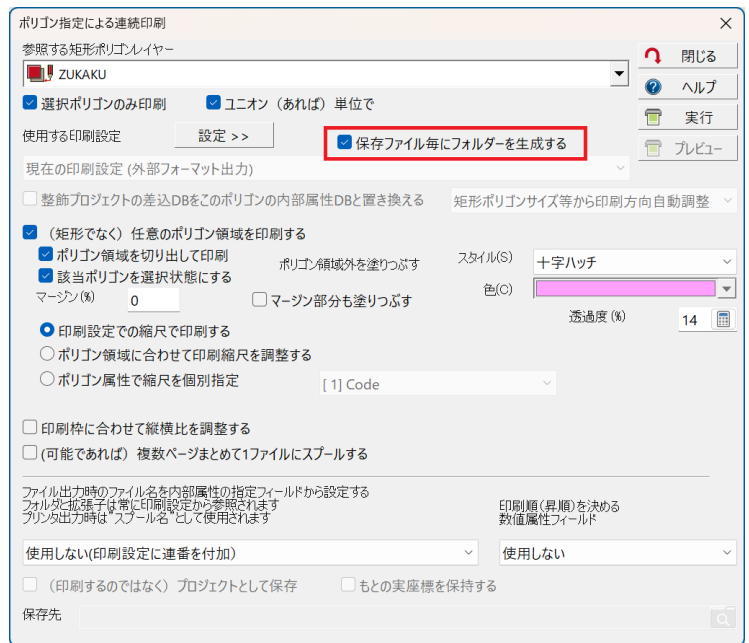


## [矩形ポリゴン指定による連続印刷]オプション追加

[印刷]-[印刷実行]-[矩形ポリゴン指定による連続印刷]-「保存ファイル毎にフォルダーを生成する」オプションを追加しました。

※[印刷]-[印刷設定]-[外部フォーマット出力設定]より、外部フォーマット出力設定済みの場合のみ有効です。

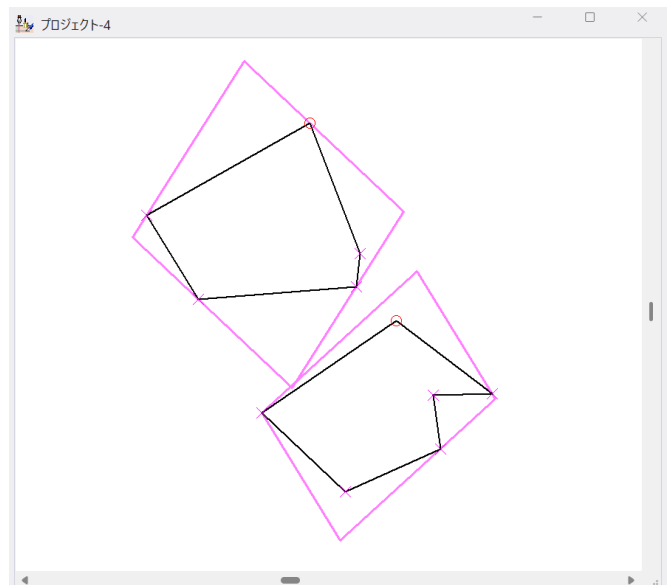
SXF や DXF などの外部フォーマット出力時に、一緒に出力される関連ファイル(背景画像ファイル等)を、1つのフォルダーにまとめます。



## [想定整形地の生成(一括処理)]コマンドパラメーター追加

[ツール]-[図上計測]-[想定整形地の生成]-[想定整形地の生成(一括処理)]のコマンド「VirtRect2」へ、新型のコマンドパラメータを追加しました。

詳細につきましては、ヘルプをご参照ください。



## [座標データのベクター変換]Z 値オプション追加

[データベース]-[編集]-[座標データ]-[座標データのベクター変換]へ、「3D 対応」のオプションチェックを追加しました。  
このチェックが ON の場合、通常は XY 座標の一致でノード結合を行います。XYZ 座標が一致している場合のみ結合ノードになる処理を行います。

The screenshot shows the '座標データからベクターレイヤー生成' (Generate Vector Layer from Coordinate Data) dialog box. The '3D対応' (3D Correspondence) checkbox is checked and highlighted with a red box. The dialog includes the following settings:

- 生成するレイヤー: レイヤー名(N) [施設オープ2], プロジェクト(P) [路線]
- 座標系(Z):  直角座標系(R),  経緯度座標系(D),  パーバ座標系(P)
- 座標データ: 経度座標(L) [1] 経度, 緯度座標(B) [2] 緯度, 経緯度座標系の場合、座標値は  Deg,  DD:MM:SS,  DDMMSS,  DD:MM.MMM,  DDMM.MMM
- Z 座標: [3] Z値, Z値のスケールファクター: 1
- 座標点をポイントに変換する(P)
- 座標点からアークに変換する(A)
  - 座標点をノードに変換する(N)
  - アークを始終点を一致させ閉塞させる(P)
  - ポリゴンを生成する
  - アークの起点フラグフィールド: [1] 経度, 起点フラグ値: [ ]
  - 構造化ポリゴンにする
- 選択されているレコードのみを変換する
- 属性データとして取り込むフィールド: [1] 経度, [2] 緯度, [3] Z値

## [シェープファイルインポート] .zip ファイル指定

[インポート]-[汎用/GIS]-[シェープ]-[ArcView シェープファイル]において、.shp ファイルの他に、.zip ファイルを指定できるようにしました。  
フォルダ中に .shp ファイルが含まれているものとして処理を行います。

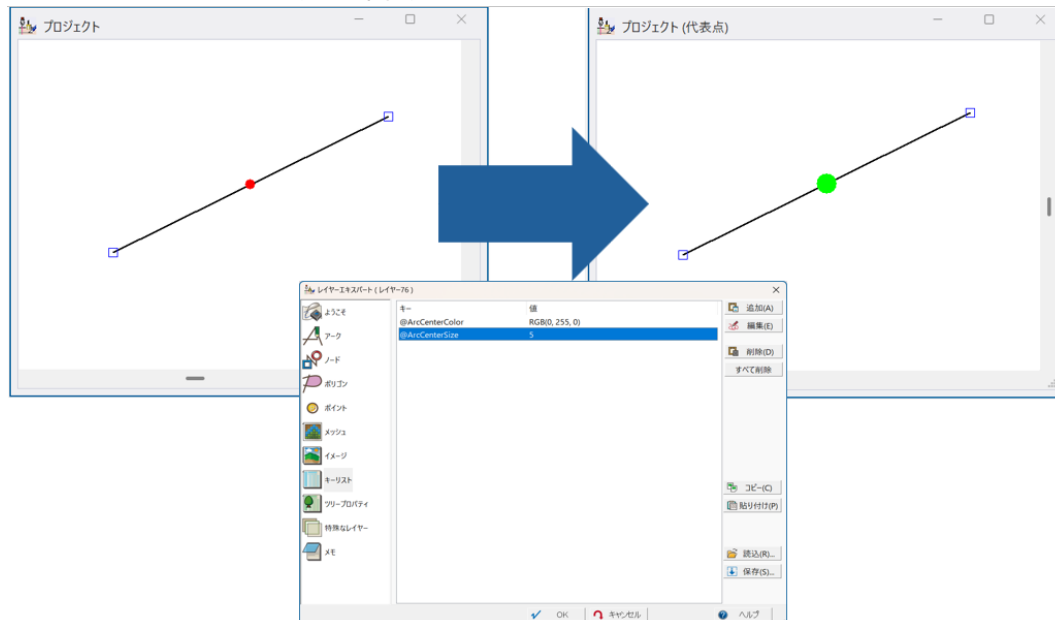
## アーク代表点 色・サイズ変更

アーク代表点の表示に関しまして、  
[レイヤーエキスパート]-[キーリスト]パネルより、  
色とサイズを明示的に指定できるようになりました。

使用例

@ArcCenterColor = RGB(0, 255, 0)

@ArcCenterSize = 5 (mm単位)



## [アーク平滑化]コマンドパラメーター追加

[編集]-[編集]-[編集作図]-[アーク平滑化]  
コマンド: **SpLine** へ、新型のコマンドパラメーターを設定しました。  
詳細につきましては、ヘルプをご参照ください。

## [位相一貫性のチェック]コマンドパラメーター追加

[編集]-[編集]-[交点・ダブリアーク]-[位相一貫性のチェック]  
コマンド: **TopologyCheck** へ、新型のコマンドパラメーターを設定しました。  
詳細につきましては、ヘルプをご参照ください。

## [背景ピクチャー]パネル「キーリスト」ボタン追加

[プロジェクトエキスパート]-[背景ピクチャー]パネルへ、「キーリスト」ボタンを追加しました。  
指定の背景ピクチャーに対して、任意のキーリストを設定できます。  
詳細につきましては、ヘルプをご参照ください。



## [背景ピクチャー]パネル「キーリスト」追加

### コンパスバー表示

[プロジェクトエキスパート]-[背景ピクチャー]パネルへ、「キーリスト」ボタンより、キーリストに **AutoSnap** を設定することで、コンパスバーを表示画面の四隅にスナップします。こちらは背景ピクチャーとしての座標に関係なく利用できます。

### 使用例

AutoSnap = 1 …右上

AutoSnap = 2 …左上

AutoSnap = 3 …左下

AutoSnap = 4 …右下

### コンパスバーのサイズ指定

キーリストに **Size** を設定することで表示するサイズを指定します。

mm単位での指定となっており、デフォルトは 20mmです。

点対象(回転してもデータの描画範囲が変わらないもの)でないコンパスパターンの場合は、デフォルトとして、点対象 = 0 をセットします。

### 使用例

**Size = 20**

項目	値	単位
一度に取り込む 最大ポイント(点群)数	5000	万点
マウス動作時(間引き)での 最大要素数		
3Dポリゴンと標高メッシュ	20000	点
背景画像	20000	点
3Dポリゴンテクスチャー画像	20000	点
標高メッシュテクスチャー画像	200000	点
ライン (パイプ表現含む)	20000	点
ポイント(点群)	1000000	点
ポイント表示サイズ(ピクセル)	3	
マウス動作時 ポイント表示サイズ(ピクセル)	5	

## [3Dビュー II 基本パラメーター設定]追加

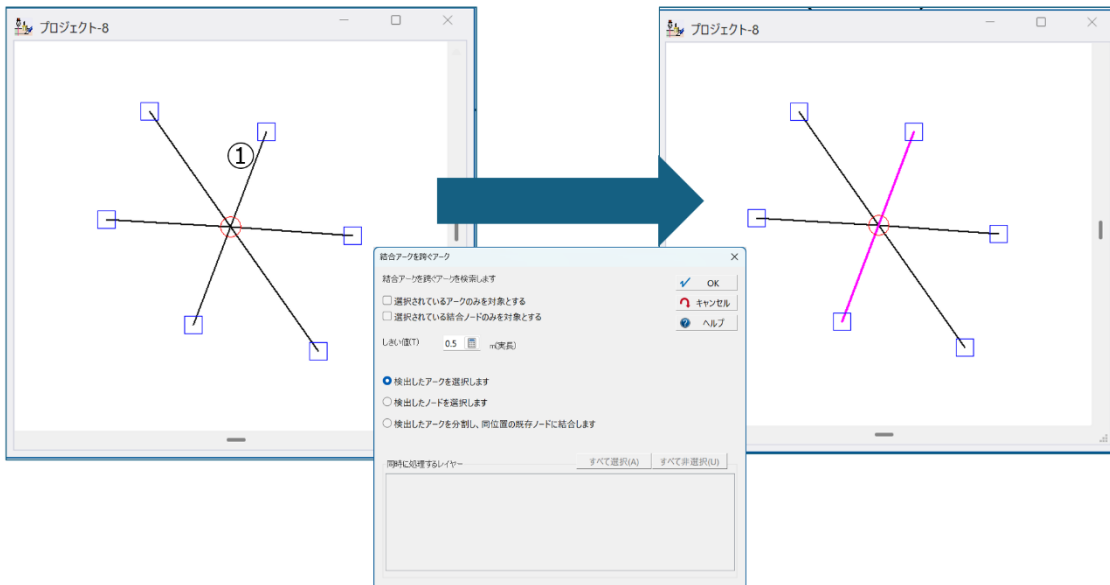
[ホーム]-[3Dビュー]へ、[3Dビュー II 基本パラメーター設定]を追加しました。

3Dビュー II での最大ポイント数や、ポイントの描画サイズ、マウス動作時の間引き設定などを指定できます。

## [結合ノードを跨ぐアークを検知、分割、ノード結合]追加

[編集]-[交点・ダブリアーク]-[結合ノードを跨ぐアークを検知、分割、ノード結合]を追加しました。  
結合ノードを跨ぐアークを検索して、分割・ノード生成、ノード結合などを行います。

交差している2本のアークの上に、  
①のアークが重なっている状態



## [タイル形式画像背景表示設定]コマンドパラメーター追加

[地理院地図]-[タイル形式画像リンクデータ]-[タイル形式画像背景表示設定]  
コマンド `RasterTileUrl` に、オプションを追加しました。  
詳細につきましては、ヘルプをご参照ください。

## [アーク・ノード構造検査]属性の保持

[編集]-[検査]-[アーク・ノード構造検査]で、アーク、ノードにエラーを検知した場合、ノードの再生成が行われます。  
その際に、ノード属性ができるだけ保持されるようにしました。  
また、座標が一致する端点ノードは、端点ノードのまま、保持されます。

### ご注意

1. 本文の内容に関して将来予告なしに変更することがあります。
2. 本文の機能説明とヘルプの機能説明に相違点が発生した場合はヘルプの記述を優先してください。
3. 本文の内容につきましては、万全を期して作成しましたが、技術的な内容について万一不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがございましたら（株） マプコンまでご連絡ください。

本書に記載されている会社名・商品名等は、各社の商標または登録商標です。

株式会社 マプコン

URL: <https://www.mapcom.tokyo/>

MAIL: [info@mapcom.co.jp](mailto:info@mapcom.co.jp)

